

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第1回 所沢市環境審議会
開 催 日 時	平成30年6月6日(水) 10:00~12:00
開 催 場 所	市庁舎高層棟6階 604会議室
出 席 者 の 氏 名	毛利吉成、天野正博、内田勉、渋谷正則、足立圭子、金子亮、高柳正行、佐々木渉、長谷川陽子、坂根裕子、藤田由紀枝、栗須菊香
欠 席 者 の 氏 名	田中充、秋元智子、上田マリノ
説明者の職・氏名	
議 題	1 開会 2 第3期所沢市環境基本計画全体案とりまとめに対するご意見への対応について 3 重点プログラムについて 4 その他
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 資料1 第5回審議会におけるご意見と対応について</li> <li>・ 資料2 マチごとエコタウン所沢～第3期所沢市環境基本計画～(素案)</li> <li>・ 資料3-1 重点プログラム(事業提案表)</li> <li>・ 資料3-2 マチごとエコタウン所沢～重点プログラム～(構成案)</li> <li>・ 参考資料1 再掲施策の一覧</li> <li>・ 参考資料2 今後のスケジュール</li> <li>・ 当日配布 株式会社ところざわ未来電力の設立について</li> <li>・ 当日配布 電気自動車普及推進事業</li> <li>・ 当日配布 上山口堀口天満天神社里山保全地域について</li> </ul>
担 当 部 課 名	<p>環境クリーン部 部 長 廣川 澄芳 次 長 小高 大輔</p> <p>環境政策課 課 長 大舘 真哉 主 幹 安藤 善雄 主 査 並木 美佐子 主 査 三浦 直子 主 事 溝越 弘倫</p> <p>環境対策課 課 長 矢野 正和 みどり自然課 課 長 奥村 稔 資源循環推進課 課 長 池田 淳</p> <p>環境クリーン部環境政策課 電話 04-2998-9133</p>

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>事務局 (環境政策課主幹)</p>	<p>あいさつ            &lt;開会&gt;            出席者が全委員の過半数に達しているため、審議会規定により会議の成立を確認。            傍聴者はなし。            葛西委員の退任により、金子委員（埼玉県西部環境管理事務所長）を新たに委嘱した旨を報告。            また、環境クリーン部長及び環境クリーン部次長に異動があったことを報告。</p>
<p>副会長</p>	<p><b>【議題 1 計画本編の全体案とりまとめについて】</b>            それでは、議題の 1 番目「第 3 期所沢市環境基本計画の素案」について事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>説明の前に、事務局から修正点が 1 点ある。            P49 目標指標の上段、「市域における温室効果ガス排出量の削減率」の年度別目標値に誤りがあった。            2019 年から 2023 年の目標値 9.3、11.0、12.7、14.4、22.9 をそれぞれ 7.6、9.3、11.0、12.7、14.4 に変更をお願いしたい。それでは説明に移る。            &lt;資料 1、2 に基づき説明&gt;</p>
<p>副会長</p>	<p>ただいまの事務局の説明について、ご意見やご質問などがあればお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料 1 の「事務局による修正点」の 1 番目だが、環境について Ecology と言っているが、Environment ではないか。Ecology は自然環境だけの意味になってしまうので、環境という意味では Environment に修正したほうがよいのではないか。「エコロジー（環境性）」というカタカナを修正したほうがよい。</p>
<p>環境政策課長</p>	<p>「エコ」を「ECO」と表記していたが、それでは一般性がないというご意見をいただいたので、カタカナに戻した経緯がある。</p>

	<p>説明書きが悪かったのかもしれないが、修正点の趣旨はご意見を反映したところである。</p>
委員	<p>3E（スリーイー）という、Environment &amp; Economy &amp; Energy というものがある。ただ自然環境を強調するのであれば話は別である。</p>
環境政策課長	<p>ご意見を踏まえて確認・修正等を考える。</p>
副会長	<p>他にご意見がなければ次に移る。</p>
副会長	<p><b>【議題2 重点プログラムについて】</b> 事務局より説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>&lt;資料3-1、3-2に基づき説明&gt;</p>
委員	<p>資料3-1と3-2について確認したい。資料3-1のどの部分までが資料3-2の構成に反映されるのか。</p>
事務局	<p>資料3-1のプログラム名と中柱名までを反映する予定である。取組はもちろん、取組を実現するための事業名まで記載する予定である。</p>
委員	<p>各取組まで入るとのことだが、取組概要まで入るイメージでよいか。</p>
事務局	<p>取組概要は実際にはリード文のような形になると思うが、説明として入れる予定である。</p>
委員	<p>資料の3-1「再生可能エネルギーの利用推進」について、「①地域新電力」の取組概要の記述で、「地域新電力」という言葉が出ているが、言葉のイメージとして事業者を表す意味を持っていたり、地域の新しい電力・エネルギーというイメージを持っていたりと、2つの意味を持っている気がする。「地域新電力」という言葉を使う際にはご注意いただきたい。</p>

事務局	記述の際には意味をはっきりさせて書くようにしたい。
委員	資料3-1の「省エネルギー」の推進で、私は今までの会議で、家庭で出た廃油をどうするかということをお願いしていたと思う。また公共施設から出る剪定枝をどうやってエネルギーに結びつけるかということも申し上げてきた。それらはどこに属しているのか。省エネルギーと再生可能エネルギーの両方に入れるべきだと思う。
資源循環推進課長	資料3-1「Ⅲ. もったいないプログラム」、「1 ごみの減量と資源化」内の「③生ごみの減量・資源化の推進」の取組概要をご覧ください。「生ごみをはじめとするバイオマスの活用」という中に廃油や剪定枝や落ち葉というものも想定している。
委員	落ち葉をバイオマスとして利用することは難しいと思う。私も今まで落ち葉という言葉はバイオマスの話のなかでは使っていないと思う。審議会で発言したことがどこで反映されているのか、どういう言葉で反映されているのかという趣旨の意見である。
資源循環推進課長	落ち葉についてはご指摘のとおり課題があることは認識している。あくまで調査研究をしていく材料の1つと捕らえていただければと思う。ご指摘頂いた部分については、「3. もったいないプログラム」のバイオマスという言葉の中に含まれるということである。
委員	先ほどの委員の意見に関連するが、ところざわ未来電力（新電力）について、廃油発電もこの会社の趣旨として入りそうだが、今回はプロジェクトチームで検討するところで終わるのか、あるいは「もったいないプログラム」の「ごみの適正な処理の推進」というところでも廃棄物を電力化するための施策まで入ってくるのか。そのあたりを教えてください。
資源循環推進課長	東部クリーンセンターではすでにごみ発電はされており、その電気についてはところざわ未来電力に供給される。今のご質問はそこからさらに1歩進めて、様々なバイオマスの利活用を将来的

	<p>にどうするのかという視点の話になると思う。そういった可能性も含めて将来のバイオマスの利活用の戦略を策定していければ良いと考えている。それについては「Ⅲ もったいないプロジェクト」の「生ごみの減量・資源化の推進」において調査研究を進めていく所存である。</p>
副会長	<p>もうすでにバイオマス発電は東部クリーンセンターで行われているという認識でよろしいか。</p>
環境クリーン部長	<p>ご指摘いただいた資料 3-1 について、P3 の中柱に「②東西クリーンセンターの適切な維持管理と運営」とあるが、東西クリーンセンターの施設運営については、長期包括運営委託というものを平成 30 年から実施している。将来的には、平成 31 年に東部クリーンセンターの電気式の灰溶融炉の廃止を予定している。これにより、東部クリーンセンター内での消費より、新電力のほうに供給する電力が多くなる。</p> <p>委員のご指摘のように、ものによってリサイクルやエネルギーなど様々なものに還元するのは、利用者のリクエストもあるためバイオマスとして一括りするのは難しいところがある。廃食用油も含めてだが、バイオマスの発電になるか、堆肥化になるか、目的に応じた活用方法について新しい勉強を今後始めたい。</p> <p>東西クリーンセンターの施設運営という意味で、西部クリーンセンターについてはリメイク工事が終わった。次の段階が 10 年先など、すぐ先になりそうである。技術の開発もあるので、事業として展開できるか今の時期から勉強していきたいということである。</p>
委 員	<p>今は直接燃焼、つまり熱を使った発電の話だが、そこに例えばごみの燃焼のときのバイオガスや枝も一緒にすることはできると思うが、それらは入っていないということか。いわゆるごみの燃焼の熱を使った場合のみを言うということか。</p>
環境政策課長	<p>現在はサーマルで発電機を回してバイオマスを熱利用している。そのため未利用エネルギー、バイオマスエネルギーということもある。法律的にもバイオマスエネルギーといわれている。ただ、サーマルではなく、メタン発酵等も伴ったエネルギー</p>

	<p>化ができないかということも、プロジェクトの中で検討していくということが、先ほど部長が答弁しているような内容になる。</p>
副会長	<p>東部クリーンセンターの生ごみなどを活用したバイオマス発電の供給先は。</p>
環境政策課長	<p>東部クリーンセンターでもエネルギーは使用するの、その一部を発電で賄っていた。内部で使用し、余剰で出た部分は東京電力に売電していた。</p>
副会長	<p>新電力会社の供給先は？</p>
環境政策課長	<p>新電力会社が東部クリーンセンターから買い取った電力は、公共施設や事業所、家庭に供給していく。</p>
副会長	<p>会社を作って、エネルギーを供給していこうという所沢市の取組みについて評価したい。</p>
環境政策課長	<p>ところざわ未来電力については、「その他」の議事で情報提供として詳しくご説明させていただこうと思うが、東部クリーンセンターのほかにメガソーラー、フロートソーラーも利用していく形になる。</p>
委員	<p>言葉の定義の質問になるが、ごみを焼却して発電したことをバイオマス発電というのか。</p>
環境クリーン部長	<p>東部クリーンセンターではごみを焼却した際の熱を利用して発電をしている。東部クリーンセンターでは1年間で3億円の費用がかかる。自前で発電することによって2億円が浮き、1億円だけ買っている。夜になると機械が停止するので売電ができるが、その収入が約700万円弱。今は外に出す電力は少量だが、先ほど申し上げたとおり、廃炉を予定しているので、売電する電気量が増える。</p> <p>ご質問のバイオマス発電だが、国では燃やすものの質の中で、生ごみ、木、紙についてはバイオマスということを決めている。たとえば、燃やしているごみの50%くらいが今申し上げたような</p>

委員	<p>項目であれば、発電した量の 50%がバイオマス発電という。プラスチックなどの残り 50%は未利用発電という。</p> <p>生ごみや紙ごみというものは1ヶ月ごとに組成分析をして、その率を報告しなくてはいけない。その率に基づき掛け算をして、バイオマス発電の部分を計算する仕組みになっているので、焼却熱による発電すべてをバイオマス発電と言っているのではない。</p> <p>私が言いたかったのは、審議会で何度も廃油について発電ではなくエネルギーとしてガソリンのようなもので使えるのではと申し上げきて、事務局も「わかりました、記載します」と応答するのに、途中で抜けてしまう。剪定枝等に関しても別なものとしてバイオマスとして利用できるのではないかとっているのに抜けているので、これらについてどこに記載されているのかという指摘をした。</p>
事務局	<p>資料を整理して、どこに反映されているのか反映部分をお示ししたいと思う。</p>
副会長	<p>新電力の話題が出ているが、所沢市にとっては新たな取組となる。今回の環境基本計画ではじめて出る取り組みで、前回にはなかった。</p>
環境政策課長	<p>おっしゃる通り、新電力会社については、5月28日に設立された。</p>
副会長	<p>これからバイオマスに関するプロジェクトチームを作っていくということだが、こういう内容も知ってもらい、理解してもらい、理解することが大切ではないかと思う。</p> <p>特に学校教育を通じながら、所沢市では新しいエネルギーの取り組みを始めているということなど、市民啓発というものも必要ではないかと思う。</p>
環境政策課長	<p>ところざわ未来電力については、市民の方々、事業者の方々のご理解を得ながら、再生可能エネルギーを使っただくことで進めていきたい。そのためには啓発、情報公開が有効であることは認識している。ごみの処分の話もある。エネルギー化すること</p>

	<p>も考えないといけない。</p> <p>今回、学校教育が重要というご指摘をいただいたが、今までのマチごとエコタウン所沢構想については、エネルギー、みどり、資源循環の3本柱で構成をしていたが、今回新たに、協働や教育という内容も重点プログラムにさせていただいて、環境教育や市民協働を皆さんと共にやっていきたいと思っている。</p>
副会長	<p>そういった所沢市の施策展開の内容について、考え方や意図していることが反映されるような表現の仕方にして、行政、市民、企業も理解して取り組みやすい内容の基本計画になればよいと思う。</p>
委員	<p>学校では、子ども達が牛乳パックの回収に取り組んでいる。しかし、なぜ牛乳パックを回収するのかを子どもに聞いても、理解していない。そこで、朝礼等で映像を用いながら、なぜ牛乳パックを回収しているのかを説明し、担任の先生を通して取り組みの意味を伝えるなど教育の中で常に行っている。また地球に優しい学校づくりでも色々と取り組んでいるが、これについてもただの行動だけではなく、その意味を理解してもらうことを常に心がけている。また、子どもだけでなく、若い先生も意識がなく子どもたちと同じような感覚でやっている先生も多いので、先生も教育しながら、自分たちの身近なことがどう繋がっているのかということ、色々な教科・場所でやっていかなければと思っている。</p> <p>この場所で聞いた、いろいろな話を校長会等で共有するなど、なるべく私がここに出席している意味を広げていきたいと思いながら今回の審議会において話を聞いたり、読ませていただいたりしている。</p>
委員	<p>新電力は非常に期待しているのでよろしくお願ひしたい。また、適応法案がまもなく国会で成立すると思われる。適応のほうも力をいれていただければありがたい。</p>
委員	<p>所沢市商工会議所として新電力のメンバーに入っているの、皆さんのご意見をしっかり伝えさせていただきたいと思う。</p>
委員	<p>資料 3-1「Ⅱ みどり・生物多様性プログラム」で「2. みど</p>



	<p>りに親しむ機会の創出」、「①ウォーキングイベントの実施」とあるが、昨日、みどり自然課さんと共催で地域の子どもやママさんと一緒にマルシェを開催したが、イベントに参加するのは60～70代の年配の方々を中心なので、是非ともこういった場所に子どもたちが参加し、地域の緑に親しむ機会の創出と、地域の連携をつくっていくと面白いと感じた。牛乳パックの話もあったが、小さいうちから牛乳パックを切っていると、いつの間にか習慣になっているというのと同じで、小さなうちから緑に親しむことが大事であると思った。</p> <p>もう一点、「Ⅱ みどり・生物多様性プログラム」の「1 みどりの保全と創出」「①地域制緑地の指定、緑地の公有地化」があるが、私は、今年から、所沢のお土産を作るプロジェクトとして、おせんべいづくりを行っている。陸稲や小麦というのは所沢の食文化だと思っている。所沢市で作った陸稲や小麦をおせんべいの中に入れることで、子どもたちに知って頂く機会となるのではないかと考えている。アウトプットが無いと陸稲などが作れないという方が多いので、お土産にしてアウトプットを作れば陸稲などが作れて地域のみどりを増やす施策にも繋がるのではないかと考える。お土産作りは商業分野と連携しているが、そういった分野とも連携していけば、全体的な施策に繋がっていくのではないかと考える。</p> <p>委員 環境教育は非常に大事だと思う。子どもに目的を理解してもらうのが大切。所沢市も様々な良い取り組みをやっているのだから、市民の皆さんに取組を知ってもらうこと。広報をさらに進めても良いと思う。</p> <p>副会長 たまたま当所が上山口小学校から出前講座を依頼されており、今回はその出前講座を記者発表して広報してみようと思っている。市民の皆さん、県民の皆さんに知ってもらうことが大切かと思う。環境教育というのが柱に入っているのだから非常に素晴らしいと思った。</p> <p>委員 総括してまとめていく段階となっている。委員のみなさまからそれぞれお伺いしたい。</p> <p>委員 こういった勉強をさせていただく機会が無い為、貴重な体験と</p>
--	---

	<p>なっている。所沢市はすごいプロジェクトを進めているが、市民としてはこのようなプロセスを経てこういう事業を展開していることは知らない。先ほどお話もあったが、所沢は広報活動が非常に上手だとは思いますが、もう少し興味を持ってもらえるようにしたほうが良い。また周知活動ももう少し市民協働の一環として考えていければよいと思う。</p> <p>まったく別件だが、東部クリーンセンターの建設計画ができたときに、余剰電力を利用して温水プールができる計画があったはずだが、結局できていない。個人的な興味の話だが、健康増進にも繋がると思うので、ご意見いただきたい。</p>
環境クリーン部長	<p>平成8年からクリーンセンターの建設に携わっている。その当時は埼玉国体があり、試合が所沢で行われることが決定していた。市内にあるカルチャーパークは、当初は運動公園という位置づけがあって、プールと体育館を作る予定だった。東部クリーンセンターでもお湯を出せる機械は導入したが、事情があって、自然的な公園を残すと言う方針が変わったため、建設中にお湯を出す場所がなくなった。その後、新しい温水プールや施設をつくるという話もあったが、その時代になると公共施設にお金を出せる時代ではなくなっていた。現在市長の公約の中では民間資金で温水を利用して何かできないかということを探している。</p>
副会長	<p>新電力会社の設立は、新しいエネルギー供給システムの一つとして有効な手段だと思う。</p>
委員	<p>子供から話を広げていくのはいいことだと思う。興味のある子は興味があるが、興味のない子はまったく興味がないというのが現状ではないかと思う。興味がある子は1つの入口から自分の頭の中で話を広げてどんどん興味を持つようになるが、まったく入り口がない子にとっては「？」ばかりで、たとえば「電気を消したら何ポイント」「早く寝てこの時間はテレビを見ないでおこう」といったポイント制の課題プリントが配られたりするが、特にうちの子供は提出する前日に数日分をまとめてやってしまう。まじめにやっている子は、これが環境にいい影響を与えるということを理解してやっているが、まったく興味のない子に関心をどう持たせていくかということが重要ではないか。興味がある子は</p>

<p>環境政策課長</p>	<p>自ら行動するので、まったく知らない子に対してのアプローチの仕方が一番大事だと思う。</p> <p>素案が出来上がった時に、大人向けの計画だと感じたが、子ども向けの計画や冊子等は作成したりするのか。</p> <p>計画を子ども向けに書いたものはないが、毎年当市の環境の状況がわかるように「わたしたちの環境」というものを配布させていただいている。子どもたちの理解が深まるように工夫をしていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>興味がない子へのアプローチに関連するが、ごみが集まっているところを生で見させることも効果的である。私は北野の最終処分場を見学して非常にびっくりしたのと、暑さ、においの中で、職員の方が手選別で作業されているのを見て、こういうことをさせてはいけないということを実感した覚えがある。最後のごみの廃棄量のところをショック療法で見させることが一番良いと思う。見学でそういう場所に入れば一番良いと思うが、それができないのなら、副読本の冊子のなかでごみの分別の仕方を丁寧に書くのではなくて、写真で見せるなどビジュアルで訴えて、先生が説明をすることが良いと思う。割と写真が小さくてインパクトが弱かったと思うので、見開き2ページの写真で大きく見せインパクトを持たせるといった工夫も必要ではないか。</p> <p>古着などは、所沢市は拠点回収ではなく、パッカー車でも回収しているようだが、それは回収量が増えてすごくいいことだと思う。増えているということは良いことなのに、それを伝える広報の部分が弱い。市民も「やろう」と思ってもらえるように、あの手この手で啓発を行うことが必要だと思う。</p>
<p>副会長</p>	<p>ありがとうございました。先ほどからの議論では知ってもらうことが必要、啓発が大切ということで、学校教育を通じて子どもの目線で伝える場面が少ないと思われる。計画の中に新たに「ともに進める環境づくり」という項目が増えたので、ここをしっかりと進めていくことがとても大事だと思う。今のご意見はとても貴重な意見だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>ごみ、みどりという話も出ているので、参考資料について、説</p>

<p>副会長</p>	<p>明してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>他に意見等がなければ、次の議題に移ることとする。</p> <p><b>【議題3 その他】</b></p> <p>スケジュールの確認を最初におきたい。参考資料の2をご覧いただきたい。当初、審議会は年間5回の予定としていたが、今年度は回数を4回に変更する。10月末から11月上旬にかけて市民にご意見を聞くパブリックコメントを実施するため、その前後に審議会を開催すると、このようなスケジュールとなったため、ご承知いただきたい。次回審議会は8月下旬で、議題は重点プログラムの素案についてとなる。詳細な日程については後日連絡したい。また本日の会議はお時間も限られていたことから、別途様式をメールにて送付するので、ご意見がある場合には6月20日（水）ごろまでにご提出いただきたい。次に当日配布資料として、「ところざわ未来電力」、「電気自動車普及推進事業」、「上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域」については市のトピックスとして情報提供となるので、ご説明申し上げます。</p>
<p>環境政策課主幹</p>	<p>&lt;当日配布資料「ところざわ未来電力」、「電気自動車普及推進事業」について説明&gt;</p>
<p>みどり自然課長</p>	<p>&lt;当日配布資料「上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域」について説明&gt;</p>
<p>環境クリーン部次長</p>	<p>加えて、私から1つご報告がある。正式なプレスリリース前であるため、資料として準備できなかったが、EUが手掛ける「IUCプロジェクト」という、EUの自治体と他の圏内の自治体がマッチングして、特定のテーマについて協力するというプロジェクトがあり、今年の2月末に当市の特徴や環境分野におけるベストプラクティスを申請したところ、スロバキアの首都ブラチスラヴァという都市が所沢市の取組に大変興味があるということで、向こうからラブコールをもらった。これからスロバキアのブラチスラヴァという都市と「気候変動」や「自然環境に重きを置いたまちづくり」といったテーマで連携することとなったのでご報告申し上げます。ブラチスラヴァは人口約42万人でドナウ川が流れている。</p>

	<p>ブラチスラヴァ城や古きヨーロッパの伝統的な町並みがあるところである。ブラチスラヴァとしては、当市が首都圏近郊でありながら、緑が多く自然と共存している都市ということに関心を持たれたようだ。</p>
<p>副会長</p>	<p>具体的にこれからどういう進め方になるのか。プロジェクトが進行していく形になるのか。</p>
<p>環境クリーン部次長</p>	<p>具体的に決まっているオフィシャルなスケジュールでは、今年10月に先方に本市が来欧し、来年の4月～5月ごろには先方が来日することになっている。それ以外の個別のやり取りについては、お互いに相談しあいながら決めていくことになる。ゆくゆくは環境姉妹都市のような形で、互いに手と手を取り合えたら良いのではないかという思いを現時点で抱いている。</p>
<p>副会長</p>	<p>環境基本計画にはどう反映されるのか。</p>
<p>環境クリーン部次長</p>	<p>EU側のプロジェクトであるため、我々のイニシアチブが取れない。そのため、今すぐにこの計画に書きこむというようなことはできない。今後は様子を見ながら、たとえば計画見直しなどの際に見えるステップになっていればそういうことも検討したいと思っている。</p> <p>まだ始まったばかりなので、進展があれば8月の審議会でご報告させていただく。</p>
<p>副会長</p>	<p>このEUとの「国際都市間協力プロジェクト」については、環境課題を所沢市が国際的に共有する場として意義のあることと思う。これから機会を通じ市民に関心を高めてもらう情報の発信をしてもらいたい。</p> <p>それでは本日の議事が終了したので、進行を事務局にお返しする。</p>
<p>事務局 (環境政策課主幹)</p>	<p>長時間のご審議ありがとうございました。次回は8月下旬を予定しており、後日、日程調整をさせていただくので、よろしくお願いいたします。</p> <p>&lt;閉会&gt;</p>